

(様式1)

自己評価表(1枚目)

松山北高等学校中島分校

学校番号(22)

教育方針	自律・共同・誠実を重んじる学校生活を通じて、豊かな人間性と不屈の精神を養うとともに、個性と能力に応じた教育の徹底を図り、国家、社会に役立つ心身ともに健全な市民を育成する。	重点目標	社会貢献できる人材の育成 ― 感謝から自立と共生へ ― 1 基本的な生活習慣の確立を通して、自尊心を育みます。 2 体験活動やボランティア活動の実施と部活動の充実により、豊かな人間性と社会性を育みます。 3 基礎・基本の定着を図るとともに、社会人基礎力を育みます。 4 能力・適性に応じたキャリア教育を推進し、生徒一人一人の進路希望を実現します。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学校経営	特色ある学校づくり	多様な生徒の適性・能力・進路に応じた教育課程を編成し、地域の人的、物的資源を生かした体験活動を行う。	A	総合的な探究の時間のカリキュラムを変更し、より地域に根差した体験活動ができるようにした。3年間のつながりを大切にしながら指導を行うことができた。	総合的な探究の時間では、持続可能かつ発展性を持たせられる体験活動の創出に尽力し、改善点があれば柔軟に対応する。
		教育活動全体を通して、基礎・基本の定着を図るとともに、他者との協働を重ねることで、豊かな人間性と社会性の育成に努める。	B	生徒による学校評価において、学習指導に関する項目が昨年度よりやや低下したが、体験活動を通して他者と協働する力が身に付いた。	少人数教育を徹底し、「分かる授業・身に付く授業」の実践に努める。また、1人1台端末を活用した効果的な課題の提供を行う。
	保護者・地域との連携	学校案内、分校通信、ホームページ、生徒会誌「み津ばち」、インスタグラムなどで、生徒たちの学校生活の様子などを積極的に発信する。	A	学校案内は見やすい配置で分かりやすく、できるだけ多くの画像や動画で視覚的に訴えるよう工夫した。HPの学校ブログも毎日更新している。	学校行事における生徒の取組について、積極的にリアルタイムで発信していきたい。生徒が作成するVRツアーの動画もHP上で公開していきたい。
		年間10日以上教育活動公開日を確保するとともに、来校者数の増加を図る。 A:10日以上 B:9日 C:8日 D:7日 E:6日以下	A	公開授業を6月と11月に合計10日実施したほか、体育大会や文化祭も保護者に公開した。	公開期間以外の行事に関しては、保護者が参加しやすい日程を考慮し、学校での活動を見られる機会をさらに増やしたい。
学習指導	教科指導の充実	一人一台端末の活用と個に応じた指導の工夫・実践により、分かる授業づくりに努め、生徒による授業評価4.0以上を目指す。 A:4.0以上 B:3.7~3.9 C:3.4~3.6 D:3.1~3.3 E:3.0以下	B	生徒の学校評価において、学習指導については4.0以上であったが、課題の与え方や家庭学習習慣の定着に関する項目で昨年より0.5ポイント評価が下がった。	授業内容の精選や指導の工夫に努め、大学進学希望者や成績不振者のどちらにも必要な学力を身に付けられるようにしたい。
		各種検定試験において、3級以上の資格取得率90%以上を目指す。 A:90%以上 B:89~80% C:79~70% D:69~60% E:59%以下	B	3年生は支援が必要な生徒以外は、全員3級以上の取得ができた。2年生も積極的に上級の検定試験に挑戦するなど、継続した努力で確実に成果を上げている。	各学年、全員で取り組む雰囲気づくりに努める。今後も生徒の個性や能力を見極めて、さらに上級の資格にも挑戦させる。また、3種目以上1級取得を目指させたい。
	家庭学習の充実	学習に対する意欲と態度を育て、個に応じた課題を工夫することで、家庭学習1日2時間以上を確保する。 A:120分以上 B:119~100分 C:99~80分 D:79~60分 E:59分以下	B	調査期間中の家庭学習時間の平均は117分で、目標数値である120分にわずかに届かなかった。	1・2年生の学習時間が少なかったため、調査期間中の学習時間の活用や提出物等の課題提出の徹底に努めたい。
	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立に努め、年間出席率95%以上を目指す。 A:95%以上 B:94~90% C:89~80% D:79~70% E:69%以下	B	2学期末までの出席率は、1年生94.4%、2年生93.8%、3年生96.2%で、全体では94.6%であった。
自ら気持ちの良いあいさつができる、時間を守る、けじめをつける、忘れ物をしない、清潔感のある身だしなみを心掛ける、清掃に真面目に積極的に取り組む生徒を目指す。			B	身だしなみ指導で毎回同じ生徒が繰り返し指導されているが、毎日粘り強く指導をすることで、少しずつ改善が見られた。清掃に関しては、「校内美化」の意識を持って積極的に取り組む姿勢が見受けられた。	学校と保護者との連携を常に図りながら、生徒に対して粘り強く指導を行う。また、基本的な生活習慣がしっかりと身に付けられるように継続して指導をしていく。
生徒指導に関して、リアルタイムに保護者に適切な情報発信を行い、家庭と学校の指導の緊密な連携を図る。			B	マチコメールなどを活用して、日頃から保護者とコミュニケーションを密に取ることで信頼関係ができた。また、情報モラルについても外部の機関を利用して指導の徹底を図っている。	個に応じた生徒指導をしつつ、常に生徒の小さな変化を見逃さず、早期に心情を把握するように努める。生徒との信頼関係をしっかりと築き、早期発見・早期対応を心がけて取り組む。
個人面接の充実		面接を学期ごとに一人3回以上(年間9回以上)行い、生徒の心情の変化を的確に把握し、生徒理解に努める。 A:9回以上 B:8回 C:7回 D:6回 E:5回以下	A	各学年による定期的な面談のほか、生徒に少しの変化があればリアルタイムで話を聞く体制ができている。また、支援員が加わることで、さらにその取組が充実してきている。	個に応じた生徒指導を行いつつ、常に生徒の様子を観察するとともに、早期に心情を把握するように努める。生徒との信頼関係をしっかりと築く。
交通安全指導の充実		生徒一人一人の交通安全への意識の高揚を図り、交通マナーと交通ルールの遵守に努めさせ、交通事故・違反ゼロを目指す。	B	交通ルールの遵守とマナーの向上に努めた結果、交通事故はゼロであったが、自転車の二人乗りやヘルメット着用していない生徒が数名いた。直ちに指導を行いその後は違反ゼロとなった。自転車保険の加入率は100%であった。	来年度も交通事故ゼロを目指して、交通ルールの遵守とマナーの向上に努める。時期や季節等により生徒に対して常に交通安全について呼びかけを行う。
教育相談・特別支援教育の充実	教職員及び保護者とリアルタイムに緊密な連携と情報の共有を常に図り、一人一人の個に応じた支援体制を整えるとともに教職員の対応力を高める。	A	支援員や外部の関係機関にも協力を得て、学校の対応力をしっかりと高めることができた。また、教員間で共通理解を持って指導した。	保護者や外部の関係機関との連携をさらに図りながら、一人一人の現状をしっかりと把握し、改善と検討を早期に行う。	

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

(様式1)

自己評価表(2枚目)

松山北高等学校中島分校

学校番号(22)

進路指導	進路指導委員会の充実	担任による進路面談後に進路研究会を全学年、各学期ごとに実施する。また3年生においては適宜追加実施し、早期に一人一人に応じた適切な進路指導を行う。	A	学期毎に担任による進路面談を丁寧に行い、進路研究会を通して生徒の進路希望を全教員で共有することができた。推薦についても進路指導委員会を通して決定し、学校全体で進路実現を目指すことができた。	担任が進路面談を実施する際に、進路研修課から進路に応じた有用な資料を提示できるように、引き続き、担任と連携を取っていきたい。
	進学・就職指導の充実	保護者との情報交換を丁寧に行い、一人一人に応じたきめ細やかな指導を徹底し、希望者の進学・就職率100%を目指す。 A:100% B:99~90% C:89~80% D:79~70% E:69%以下	B	生徒・保護者との連絡を丁寧に行い、個に応じたきめ細かい指導を行うことができた。就職率は100%を達成したが、進学に関しては全員が第一希望校に合格することはできなかった。	就職・進学ともに良い結果は出ているが、最後までやりきらせるというところが不十分だった。生徒の特性を把握し、適切なアドバイスを行っていきたい。
特別活動	特別活動の充実	進路指導に関して、担任及び進路課長による面談を充実させ、面接や小論文などの受験指導を丁寧に行う。生徒と保護者に対して適切な情報発信を行い、進路実現に向けて家庭と学校の連携を図る。	B	担任による面談を丁寧に行った。生徒と保護者に対しても適切に情報発信を行ったつもりだが、生徒・保護者には十分ではない部分もあった。	何が進学情報で、何が就職情報なのか、生徒・保護者に分かりやすい形で進路情報を提供することについて、その方法を考え、取り組む必要がある。
		部活動等に主体的、積極的に取り組む生徒の育成を目指すと共に協働的に取り組む態度を身に付けさせる。	A	今年度は部活動の編成を大幅に変更した。短い時間の中で主体的、積極的に創意工夫と努力で取り組む態度を身に付け、結果、大きな成果を上げる部活動も出てきた。	短時間の部活動の中で主体的・積極的に創意工夫と努力で、部員全員が一丸となって取り組む態度を身に付ける。
同和・人権・教育	人権・同和教育の充実	学校行事、生徒会活動、部活動等を通して心身を鍛え、充実感や達成感を感じ取らせるように努める。また、仲間と共にルールを守って、明るく、楽しく、元気に取り組む姿勢を身に付けさせる。	A	生徒会を中心に全員が一丸となって1年間を通して活動することができた。中島分校の誇れる部分となっている。また、他校との交流も積極的に取り組んだ。	現在の学校行事などを常に見直し、生徒たちの意見も取り入れながら、時代に応じた新しい活動の創出に積極的に取り組む。
		事前の資料配布や相談及び研究授業などを通して、人権・同和教育ホームルーム活動を充実させる。	B	クラス担任は人権・同和教育HR活動で、クラスや生徒の実情に応じた工夫が見られたが、教員間の事前学習などの時間を設けることができなかったことにより、学校全体としての統一感に欠けた面があった。	人権・同和教育HRの事前研修を充実させたり、教員の外部研修への参加を広く促したりすることで、教員の資質向上を図り、教材の工夫につなげたい。
保健・安全管理	校内美化・環境整備の推進	人権委員会活動、講演会、人権標語、人権ポスター等により、校内の人権啓発活動による人権意識の高揚を図る。	B	人権委員会活動など人権啓発活動を行い、人権意識の高揚を図ることができたが、ほとんどの活動が教師主導であるため、生徒は受け身になってしまった。	委員会活動の充実を図り、生徒からの人権啓発活動ができるように促していきたい。そのために、生徒が活動できる場面や機会を用意する必要がある。
		適切な清掃配置を行い、巡視指導等により生徒一人一人の意識を高め、環境美化を図る。	A	生徒たちは環境美化に対する意識は高く、清掃等の時間では校内の隅々まで最後まで取り組むことができた。今後も継続していきたい。	生徒たちを適材適所に清掃配置し、教職員と生徒が一体となって共に環境美化活動に積極的に取り組む。
	生徒と教職員による芝生・校内作業を毎月実施する。また、日頃から校内美化に努める姿勢をもたせる。	A	毎月の芝生・校内清掃活動及び、職員校内清掃作業等により、芝生や校庭の行き届いた管理ができた。	季節・天候を考慮しながら効率よく実施するとともに、継続して学校の顔である正門前を常に整備する。また、校内の除草等も常に行う。	
	保健管理の充実	実践力につながる「保健だより」を発行し、健康管理の徹底を図る。また、積極的に食育の推進に努める。	A	毎月の「保健だより」を発行することで、健康管理の徹底を図り、食育の推進に努めることができた。登校時、校舎の入口で健康観察を毎日実施した。	毎月の「保健だより」を発行し、その時期に応じた適切な内容を掲示することで、健康管理の徹底を常に図る。毎日、登校時に校舎の入口で生徒の様子を観察する。
業務改善	危機管理、安全管理の充実	学校安全に関する研修と定期的な点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努める。また、日頃から防災に関する意識を常にもたせるようにする。	A	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努めることができた。また、校内点検を定期的に行い、危険箇所等の把握に努めた。	学校安全に関する研修と点検、防災避難訓練の実施により、安全管理能力の育成に努める。さらに、防災に対する意識を高めさせる。
		適切な勤務時間	教職員の負担軽減のために、業務の平準化、ICTを活用した情報共有などの効率化、及びテレワークの積極的な活用による時間の有効活用などを行い、ワークライフバランスの実現を図る。	A	時間単位での年休取得やテレワークをうまく活用するだけでなく、学校行事の振替休日を適切に配置することで、教職員の負担軽減につながった。
職場環境の整備	防災・減災の観点から、身の回りの整理整頓を心掛け、働きやすく安全な職場環境づくりに取り組み、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	A	定期的に施設点検を実施し、修繕等を行うことで、安全な職場環境づくりに取り組んだ。不要物の廃棄等も行い、働きやすい環境づくりにも尽力した。	職員室や事務室等の整理整頓を継続的に、働きやすく安全な職場環境を目指したい。また、教職員の要望も聞き入れた環境整備を行いたい。	

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。